専業代理店と危機管理会社が連携

リスクマネジメントサービスをパッケージ化

株式会社RMJホールディングス

会員紹介

RMJ Holdings
Risk Management of Japan

乗合型保険代理店の「株式会社インシュアランスサービス」（本社＝兵庫県芦屋市、清水丈嗣代表）と危機管理サービスの「日本アイラック株式会社」（本社＝東京都新宿区、国原秀則代表）は経営統合し、共同持株会社「株式会社RMJホールディングス」を5月1日付で設立。両社はRMJの傘下に入ることで、リスクマネジメントサービスをパッケージ化し、付加価値の高い保険商品の開発や販売などで差別化を図る考えだ。とりわけ法人開拓面で他との差異をさらに推進する。専業代理店と危機管理会社という、異業種の連携はこれまでに例を見ず、新会社の事業に注目が集まる。

インシュアランスサービスは1975年の創業。「保険会社の代理人ではなく、お客さまの代理人である」を経営理念に掲げている。リスクマネジメントや損害サービスで独自のノウハウを培いながら、関西圏を中心に事業展開。社員約80名を擁する。生損保40社を乗り合う専業代理店で現在、7000社の法人顧客を有し、取り扱い保険料は約45億円、収入手数料は約9億円に上る。

保険業法の改正や多様なチャネルの参入に伴い、競争が激化する中、顧客サービスの一層の充実は中長期的な経営課題と認識し、業界の未来図を視野に入れて意欲的に取り組む。

一方、日本アイラックは1996年、危機管理会社として営業を開始。社員約70名を抱え、企業や団体を危機管理面から総合的にサポートする。危機管理における高度な知識や経験を生かし、幅広いネットワークなどを元に、海外駐在員や出張社員などがトラブルや事故に巻き込まれた際に対応する「海外緊急重大事故支援サービス」を旅行代理店や学校法人などに提供。「事故処理アウトソーシング」で保険会社の保険金支払い業務を支援し、「お客さま相談サポートサービス」で企業のクレーム対応を引き受けるなど、顧客企業からは高い評価を受けている。

経営統合後、両社はそれぞれのノウハウを相互活用し、損害保険による顧客への補償、クレーム対応といった事業サービスをセットにして法人向けに提供する。付加価値を高めることで、実績拡大を戦略的に推し進める。また、関西を本拠地としながら首都圏、中部圏にも支店を持つインシュアランスサービスと、逆に首都圏を地盤とする日本アイラックの2社融合は、営業基盤やマーケットを互いに補完できるなど成長性が高く、一段上のステージから企業サポートが可能となり、大きなビジネスが期待できる。

両社は昨年から経営統合について協議を重ね、年末には基本合意に至った。近年のインターネットの普及に伴い、今や予期せぬトラブルが発生した時の対処方法を見誤ると、業績悪化に繋がりかねない。金銭的な補償だけではカバーできないリスクが増えており、危機管理は企業の必須事項になっている。

RMJ設立時点で、グループ社員は約150名となり、両者の社風と自主性を鑑みつつ、グループ内での分業を図り、部課制の強化など、組織の一体化を進める。当面はインシュアランス社が取り扱う保険各社のさまざまな保険に、企業のリスクマネジメントを総合的にサポートする商品を提案。次には業容の安定的発展のための体制づくりを強化し、両社の商品をクロスしてパッケージ化を展開していく。また、新会社は清水氏が社長に就き、国原氏が会長になってスタートする。資本金9800万円、純資産は2億円を超える。

RMJは5年後の売り上げ目標を30億円、経常利益3億円を掲げており、これは両社合計の2倍に当たり、達成後に株式上場を目指す。

《法人概要》
法人名：RMJホールディングス
設　立：平成27年5月1日
資本金：9800万円
所在地：東京都新宿区四谷3―2―1
四谷三菱ビル6F

国原秀則会長

RMJホールディングスの国原秀則会長（左）と清水丈嗣社長（中央）

RMJホールディングスの本社が入るビル